

第9章 鶴ヶ舞遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～900m程下った左岸に位置している。標高21～23mで現谷底との比高差は5mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約200m西に亀居遺跡、約150m南に江川南遺跡、約200m南東に東久保遺跡がある。

1987年の最初の調査から2014年12月現在、22地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壺が出土している。

II 鶴ヶ舞遺跡第12地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2011年5月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年7月19日～21日に、幅約1mのトレンチ2本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

III 鶴ヶ舞遺跡第13地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2011年6月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年7月21日に、1×1mのトレンチ5ヶ所を設定。人力による表面精査を行ったが、遺構は確認されなかった。地山ロームまでの深さは約60cmである。地表面に土器片が僅かに確認できた。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第44図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

IV 鶴ヶ舞遺跡第14地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2011年9月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年9月22日に、幅約1mのトレンチ2本を設定し、人力で表土除去後、表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。地山ローム層までの深さは約20～70cmである。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

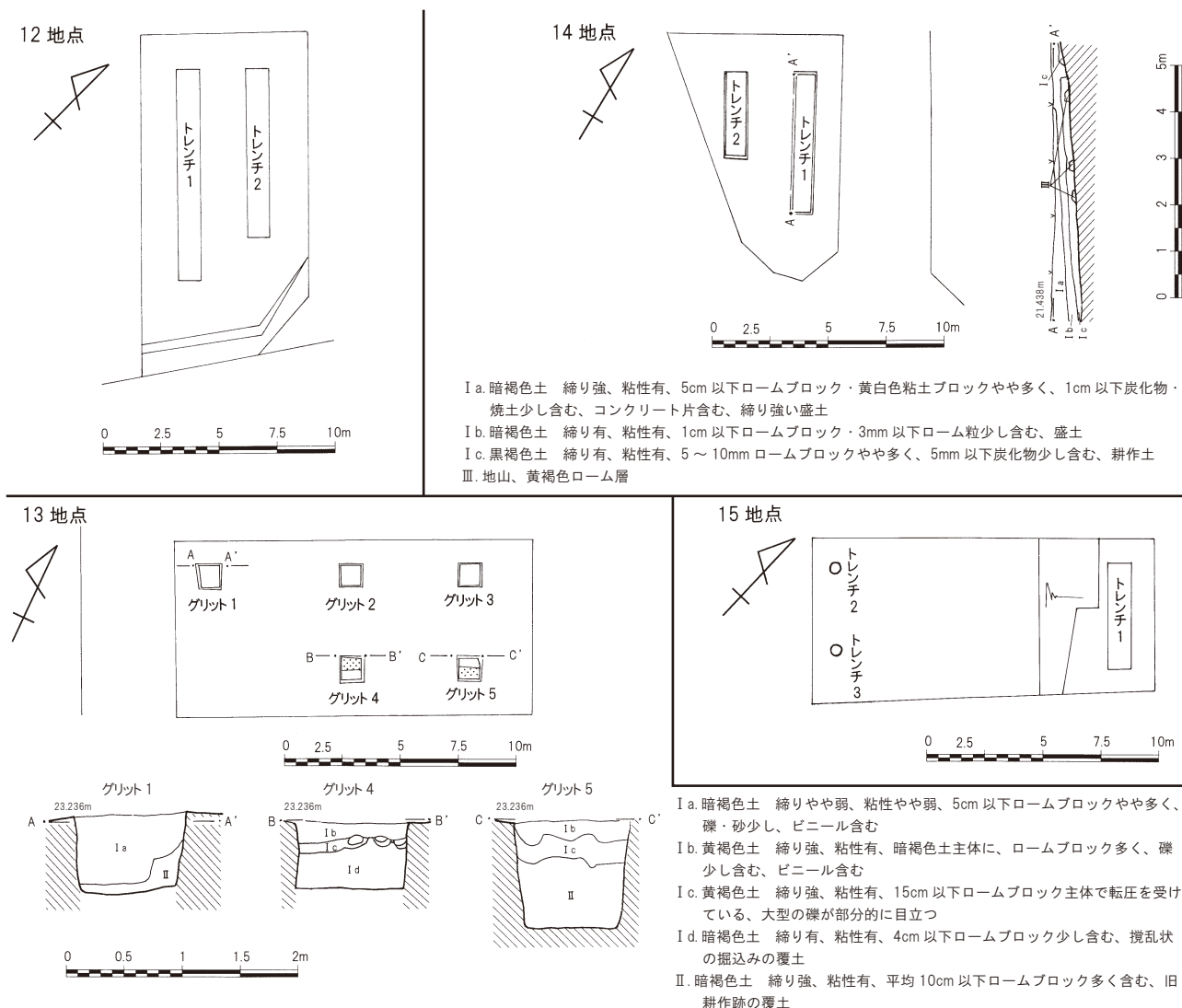
V 鶴ヶ舞遺跡第15地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2011年10月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年11月22日に、幅約1mのトレンチ1本を設定、直径約50cmのテストピット2ヶ所を設定した。

人力による調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。調査区内西側では地山ローム層までの深さは約60cmであったが、東側の道路に面する部分は、ほぼローム面が露出している状況であった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第45図 鶴ヶ舞遺跡第12～15地点調査区域図(1/300)、土層(1/60・1/150)



鶴ヶ舞遺跡第 14 地点調査風景



鶴ヶ舞遺跡第 14 地点調査風景



鶴ヶ舞遺跡第 15 地点調査風景



鶴ヶ舞遺跡第 15 地点近景



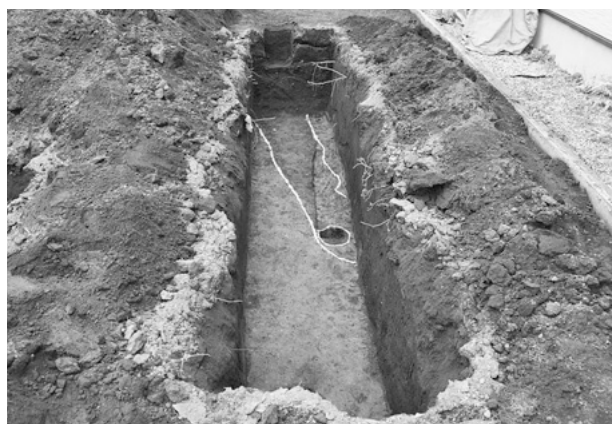
松山遺跡第 57 地点調査風景



松山遺跡第 57 地点トレンチ 1



松山遺跡第 58 地点調査風景



松山遺跡第 58 地点溝